

## 令和2年度 第3回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日 時 令和2年10月23日(金)  
午後1時30分～  
Web会議システム(Zoom)  
及び対面方式併用にて実施

### 1 開会

「蒲郡王」企画の紹介

事務局より配布資料の確認、欠席者の報告

### 2 議題

#### (1) 協働モデル事業について

##### ○産学官連携による学生の地域企業紹介活動支援

- 前回の会議で産学官連携を用いて、愛知工科大学の学生が企業の取材、PR動画を作る企画を提案。その際、いただいたご意見で、蒲郡の資源と学生の潜在能力を引き出し、「地元愛」を育成していく取組をしたらどうかというものがあつた。
- そこで、学生が、地域社会に出て企業取材し、自分の目、肌、足で体感し、企業の紹介映像を作成する事業案を検討している。
- 今年度は、大学・学生のヒアリングを行う準備期間とし、来年度本格的な実施としたい。
- 愛知工科大学の学生が、全て蒲郡市に在住という訳ではない。蒲郡市にいる大学生という人多くいると思う。
- 大学、行政、民間企業の連携を想定していたため、愛知工科大学を連携先とした。
- 産学官の連携をメインと考えると、今回の方法でよい。市内の大学生をターゲットとすると少し連携のニュアンスが異なってくるので、念頭においてほしい。
- 企業は、市内企業全部を指すのか。希望企業があらかじめあるのか。
- 訪問企業は、J C, Y E Gと相談して決めていきたいと考えている。ただし、学生が自分で調べて訪問先を検討するものとしたい。
- 1つの企業に訪問する大学生の人数は？
- 訪問大学生は、メディア学科の授業を受講されている90人の中から、選抜した方としたい。何人ぐらいなら迷惑を掛けないか。
- 5人ぐらいが限度かなと思う。
- 来年度、Y E Gに新たな委員会、未来育成委員会を設置する。まさに、今回のモデル事業に類似した内容であるが、対象年齢が異なる。小学生から大学生までをターゲットとしたい。イメージはキッズニアの規模を多くしたもの。地元の企業を知らない子どもに対し、企業を1つの会場に集めてそれぞれの紹介ブースを設置する。
- 紹介映像は誰に観てほしいのか。愛知工科大学の中だけは、もったいない。例えば、ケーブルテレビで流すなど。
- 会場に集まることができない企業については、オンライン上で紹介動画を集約したもので公開するなど、たくさんの手法を組み合わせることで効果

が増加すると思う。

- 作成した動画は、インターンシップの紹介サイトがある。そこで公開したらよいと感じている。取材した学生だけが企業の良さを感じるのだけでなく、他の学生への波及効果があるとよい。
- 短い動画に編集して、手軽に使えるようにしたらよい。また、協働まちづくり課だけの事業にしたらもったいない。行政内で他課と協働することで、市全体としての取り組みとして認知され、更に効果が上がるのではないか。
- 取材して映像化するだけでなく、学生と企業とのワークショップを行うなどしてもよいのではないか。東京では、「オープンファクトリー」といって企業が地域に情報を開示するなどしている。大田区が有名。
- 以前、今回のモデル事業と同じような取り組みをしたことがある。最終的には冊子を作った。安城、岡崎では、“まちの教室”といって商店街が先生になって、「鯉節とさば節の違い」などを説明してくれた。今回も、企業が主体となって体験教室に繋がったら面白いかなと感じる。
- 大学との連携ではあるが、撮った映像は色々なところで活用できると思う。大学紹介、インターンシップ、ケーブルテレビなど。蒲郡市では、シティーセールスの計画を策定している最中だが、その中にも地元の学生と一緒に市をアピールするというのも入れるということで進んでいる。
- メディア学科というと就職先はどんな企業になるのか。イメージが湧かない。愛知工科大学自体が、自動車関係に強い。そのため、自動車関係企業と繋がっていくと、今後の広がりができるのではないか。また、総代の中にも地元の企業を知らないという人がいたため、普段なら防災施設の見学などをする旅行を、コロナ禍ということも考慮し地元の企業を見学するという内容に変更した。意外と大人が知らないということを感じている。
- 総合計画の審議会を行っている途中で、若者の意識調査では、「蒲郡市が好きだ」という子は多いが、「蒲郡市に就職したい、住み続けたい」という子は多くはない。蒲郡市に魅力が少ないということか。そう感じている子たちが、蒲郡市を見て大学生の視点で魅力を発信してくれることは大変よいこと。また、まちづくりに関しても、同様に興味を持ってくれると嬉しい。
- 愛知工科大学の学生が、どのようなことに興味があるのか、どのようなことが得意なのかをリサーチした方がよいのではないか。
- 事前にアンケートを取ったり、話をする機会を設けたりするつもり。
- 以前、愛知工科大学の学長のあいさつで「工業系の大学だが、社会性を身に付けてもらいたいため、社会学の先生を呼んでクラスを作った」とおっしゃっていた。今回は、そのクラスとの協働ということで、学校の動きと合致したものとなる。
- 広がりという中で、産官学の中で課題に対する共通項を見つかり次に発展しやすい。そういった意味では、今回の事業に関して共通項を見つけやすい事業だと感じるので、就職に限らず新たな展開を生みやすいと思う。
- JCで「星に願いを」という企画を行っている。あらかじめ、様々な職業の方に自分の仕事のこと、また夢を話してもらう。その映像を、市内小中学校のお昼に流してもらっている。その後、科学館で「星空ボード」が設置され、子ども達が自分の夢を書いて掲示している。折角、撮影した動画を市内3高校で放送したらどうか。

- 市内3高校は、校内放送で音声のみ流れるが映像は難しい。
- テレワークが広がっていくと、市内に職があるから住むというより、暮らしやすさを求めるようになるのではないかと。蒲郡市の魅力・価値を見出していく必要がある。
- コロナ禍で、厳しい企業ばかりではなく、頑張っている企業もある。そんな頑張っている企業を応援していける企画になったらよい。

#### ○SDGs 理解講座

- モデル事業人材育成部門で、SDGs を学ぶ講座を行う。SDGs という言葉自体は耳にする機会が増え、総合計画にも盛り込まれることになっているが、実際は市民にSDGs という言葉自体が共有化されていないと感じる。
- SDGs は、社会課題が色々なところに影響を与えるといった考えや、目標から事業を逆算する思考などは市民団体にとっても有益である。
- カードゲームとともにグループワークを行い、理解を深める。
- 以前に体験会に参加し、自分達の活動に持続可能性を当てはめてみると、子ども達に地域愛を伝える事業なのかなと納得ができた。そこから、やりたいことが広がってきている。小学校だけではなく、中学校などもっと広範囲になってきた。
- 団体間での課題の共有が必要だと感じている。この企画を通して、団体の課題共有が進めばよいと思う。
- 難しい課題で、幅が広いと感じている。11月1日に「愛・道路パートナーシップ事業」を行う。町内会の有志で自分たちの地域を清掃し、これを機会に環境のことなどを考えてもらえたらいい。
- 半田JCがSDGs を広めることに積極的に取り組んでいる。
- 全国のJCで取り組んでいる事業。自分が知ったのも2年前。遅れをとっているのは日本ぐらい。なるべくJCも協力していきたい。
- 総合計画の審議会で初めて知った。勉強できるとしたら、参加したい。

#### (2) 今年度助成金事業について

##### ○今年度採択団体の状況について

- 蒲郡雅楽倶楽部の1団体採択。雅楽の演奏を小学校で体験する。11月6日に塩津小学校で、雅楽の授業を行う予定。これから、どのように体験会を実施するのか検討していく。

##### ○新型コロナ対策コース応募状況について

- 残り2回締め切りがある。過去2回の締め切りでゼロ件。ただし、3団体の相談があり。1団体は、申請を断念してしまっただが、残り2団体は関係者と調整中。
- 具体的な事業イメージができていない団体が多いのか。
- やりたいことが決まっているが、あとどうやってまとめるのか、文章にまとめるかを決めかねている。申請に関して、もう少し簡略化されると負担が減る。
- 実施すると成功な事業というのはない。どんどんチャレンジしてほしい。
- 今だからこそできない事業を、救ってあげればよいと感じる。
- 高齢者の居場所事業が全く開催できていない。そういった中で、「お手紙作戦」を考えており、「お元気ですか？」と手紙とともに自宅を訪問する。小

- さな地域ではあるが、地域の子どもにも協力いただきながらやっていきたい。今年度は、敬老会も開催できないそう。
- 敬老会が中止になり、記念品配布だけになった。その記念品に、子どもからの手紙を添えたら受け取った方が喜ぶのではないかと考え、学校に依頼をした。受け取った方は、返信をするが生徒の氏名などは個人情報として出すのは難しいので、〇年〇組というのを聞いて返信する。
  - 年賀状なら、届け先に困らないと感じる。
  - コロナ禍で、社会福祉協議会にも変化が生まれている。Youtuber になるところ、一方でハガキを用いてアナログに戻るという2つの局面にある。

### (3) 来年度助成金事業について

#### ○事務局より内容を報告

- コロナ対策が行われているかとして「不測の事態が生じた際の対策が行われているか」を審査項目の中に入れてはどうか。
- コロナ対策が行われていないと、事業自体できない。そのため、前提であり、審査項目には不要でないか。
- 審査項目の中になくても、募集要項などには注意事項として書いてもよいのではないか。
- 無しでよいのではないか。
- 申請において面倒なこと、なるべく文字は消したい。
- 申請書には入れず、要項中の注意事項に留める。まちづくりセンターで相談を受ける際に、丁寧に説明を行う。

### (4) 新しいまちづくり指針の作成について

#### ○事務局より進捗状況について説明

- 市子ども会連合会の状況を伺った
- 生涯学習課でアンケートを取った。大人は子ども会の存続を望んでいないと分かった。ただし、こういうご時世だからこそ、地域内で繋がっていきたいと感じている。みんなが少しずつ活躍できる地域となればよい。

### (5) その他

#### ○令和元年度まちづくり賞の授与について

- 3月に授与式の予定でしたが、延期になっている。12月中ぐらいに実施予定。

#### ○今年度のまちづくり賞について

- 今年度の推薦団体を次回までに考えておいてほしい。次々回で決定ぐらいを想定している。

## 3 その他

賀詞交歓会について 令和3年1月16日(土) 午後

次回開催時期について 令和3年12月11日(金) 午後1時30～